

＜スタッフ紹介＞

役職	スタッフ名
主任部長兼診療局長 兼臨床研修副センター長 兼ICU/CCUセンター長 兼心臓・血管センター長 兼医療安全管理室長 兼患者サポートセンター長	船津 俊宏
部長	良本 政章
医長	石田 勝
非常勤医師	石津 寛治

＜特色と概要＞

心臓血管外科では、冠動脈疾患、弁膜症、大動脈瘤、弁膜症合併不整脈、下肢閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤など、心臓大動脈、末梢血管を中心とした多様な病変に外科治療をおこなっている。近年、こうした循環器疾患の治療を要する患者は、高齢化、他疾患の合併などから、ますます病態は複雑化し、ハイリスクとなっている。これらの患者に対して、単に手術を行って生命予後を改善するばかりではなく、術後の活動性や生活の質を保つことも重要な課題である。われわれは、心臓・血管センターの一翼として、循環器内科、看護師、薬剤師、リハビリテーション療法士、臨床工学技士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなど多職種と連携し、急性期診療に取り組んでいる。また慢性期の日常臨床においては、かかりつけである地域の先生方と密に連携し(病診連携、病病連携)、退院後の全身状態の把握や管理に努めている。

当科では、従来の冠動脈バイパス手術、弁膜症手術、大動脈、末梢血管手術に加え、大動脈ステントグラフト治療も高齢者中心に定着した。また当院で対応困難な、経カテーテル大動脈弁置換や重症心不全の患者に対する植込み型補助心臓等については、大阪大学関連施設への橋渡しをおこなっていく。

＜実績＞

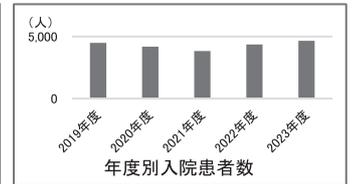
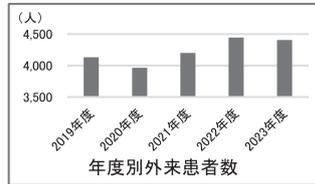
2023年1月～12月におこなった全手術数は196件、開心術116件で、昨年の154件、103件より大きく増加した。開心術およびその他の内訳を以下に示す。

冠動脈疾患	26例*
弁膜症	82例*
MICS手術	30例
胸部大動脈瘤(開胸手術)	22例*
急性大動脈解離	4例*
心筋症、その他開心術	5例
先天性	1例
腹部大動脈瘤(開腹手術)	19例
腹部大動脈瘤(ステントグラフト)	10例
末梢血管手術	35例
その他手術	33例

\*重複あり

患者数(外来及び入院、延べ人数の推移) (人)

年度	外来		入院	
	延べ患者数	1日平均	延べ患者数	1日平均
2019年度	4,133	17.1	4,494	12.3
2020年度	3,964	16.3	4,178	11.4
2021年度	4,201	17.4	3,830	10.5
2022年度	4,445	18.3	4,358	11.9
2023年度	4,407	18.1	4,666	12.7



＜今年度の反省と来年度への抱負＞

2021年に導入した右小開胸による完全内視鏡下弁手術(いわゆるMICS手術)は、今年度僧帽弁手術、大動脈弁手術など30例に実施し、昨年の10例から大きく増加した。

また、2019年に当院に導入された循環補助装置Impellaを、重症心不全合併症例の周術期に予防的に使用して、良好な術後経過を得た。

学会発表は全国学会中心に8題を報告したが、論文発表はなかったことが、学術面での今年度の反省である。

手術数のさらなる増加はもとより、6月に完成するハイブリッド手術室を使った先進的手術、特に経カテーテル大動脈弁手術(いわゆるTAVI手術)を、心臓・血管センターをあげて実現するよう取り組んでいきたい。また学術面でも、学会発表や論文活動の充実に努めたい。

